

作成日 2019年11月29日

改訂日 2026年3月16日

## 安全データシート

## 1. 【 化学品及び会社情報 】

製品名	丸和ベネビア OD
供給者の会社名称	丸和バイオケミカル株式会社
住所	東京都千代田区神田須田町 2-19-23
担当部門	開発本部 登録・環境グループ
電話番号 / FAX	Tel: 03-5296-2313 Fax: 03-5296-2323
推奨用途	殺虫剤
使用上の制限	農薬登録以外の使用は不可
整理番号	24209-04

## 2. 【 危険有害性の要約 】

化学品の GHS 分類(分類 JIS)

健康有害性	皮膚感作性	区分 1
環境有害性	水生環境有害性 短期(急性)	区分 1
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分 1

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

警告

危険有害性情報

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き【安全対策】

粉じん/ヒューム/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

環境への放出を避けること。

保護手袋を着用すること。

【応急措置】

皮膚に付着した場合: 多量の水で洗うこと。

皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診察/手当てを受けること。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

漏出物を回収すること。

【保 管】

なし

【廃 棄】

内容物/容器は、承認された廃棄物処理設備で処分する。

## 3. 【 組成及び成分情報 】

化学物質・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名

シアントラニリプロール:

3-ブromo-1-(3-クロロ-2-ピリジル)-4'-シアノ-2'-

メチル-6'-(メチルカルバモイル)ピラゾール-5-カルボキサニリド

成分及び含有量

化審法 No.

安衛法 No.

CAS No.

&lt;有効成分&gt;

シアントラニリプロール

10.3%

8-(1)-3850

736994-63-1

&lt;その他&gt;

水、界面活性剤 等

89.7%

(フュームドシリカ

1.3%)

(1)-548

112945-52-5

#### 4. 【 応急措置 】

意識のない人には、絶対に、口から何も与えてはいけない。

中毒情報センターまたは医師に問い合わせるときや治療に行くときは、製品の容器またはラベルを持っていくこと。

吸入した場合

新鮮な空気の場所へ移す。

症状が続く場合には、医療機関で診察を受ける。

人工呼吸あるいは酸素吸入、場合によってはその両方が必要になることがある。

皮膚に付着した場合

中毒情報センターまたは医師に問合せ、治療のアドバイスを得る。

直ちに汚染された衣服を脱がせる。皮膚を直ちに多量の水で15-20分間洗う。

眼に入った場合

中毒情報センターまたは医師に問合せ、治療のアドバイスを得る。

目を開け水で15-20分間ゆっくり穏やかに洗う。コンタクトレンズを着用している場合は5分後に外し、その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合

中毒情報センターまたは医師に問合せ、治療のアドバイスを得る。

飲み込むことが可能ならコップ一杯の水を飲ませる。

中毒情報センターまたは医師からの指示を受けないでおう吐を誘引しない。

急性症状及び遅発性症状の

意識不明の人には口から何も与えないこと。

最も重要な兆候症状

情報なし

応急措置をする者の保護に

情報なし

必要な注意事項

医師に対する特別な注意事項

情報なし

#### 5. 【 火災時の措置 】

適切な消火剤

水スプレー、泡、粉末消火剤、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)

使ってはならない消火剤

棒状注水を避ける(汚染のおそれ)

火災時の特有の危険有害性

この製品は可燃性ではない。

特有の消火方法

情報なし

消火活動を行う者の特別な

火災の場合は、自給式呼吸装置を着用する。

保護具及び予防措置

保護具を使用する。

特有の対策

消火水が、地上水または地下水のシステムを汚染しないようにする。

汚染した消火用水は回収すること。排水施設に流してはならない。火災の残留物および汚染された消火水は地方自治体の規制に従って処分しなければならない。

(小火災に)火災が広範囲である場合は、消火水がエリアの汚染を助長させてしまうので、可能であれば燃やし尽くす。

水を噴霧して容器/タンクを冷却する。

#### 6. 【 漏出時の措置 】

人体に対する注意事項、

人々を避難させ、区域を完全に換気し、自給式呼吸器を使用する。

保護具及び緊急時措置

保護具を使用する。

環境に対する注意事項

物質が、下水、水路または低地域へ流入することを防止する。

封じ込め及び浄化の方法

おがくず、砂、油除去剤またはその他の吸収材で吸収させる。

及び機材

承認された容器に廃棄する。

大量の液体が流出した場合は、すぐにくい上げるか、吸引機で吸い取る。

補足事項

回収したものの使用を避けるために、製品の容器に戻してはならない。現地の規定に従い、処分する。

## 7. 【 取扱い及び保管上の注意 】

### 取扱い

技術的対策

休憩前や製品取扱い直後には手を洗う。  
汚染された衣服は洗浄してから再使用すること。  
局所排気・全体換気 情報なし

安全取扱注意事項

接触回避

衛生対策

この製品は可燃性ではない。  
特に言及すべき物質は無し。  
取扱後および飲食、ガム、タバコの使用前、またはトイレ使用前には、石鹼と水でよく手を洗う。  
物質が内部に入った場合、衣服/PPE(個人用保護具)を直ちに脱ぐ。十分に洗い、清潔な衣服を着用する。

### 保管

安全な保管条件

製品は子供やペットが近づけない場所に、元の容器のみに保存する。  
保存している水、他の農薬、肥料、食料品または飼料を汚染しない。  
家またはその周辺で使用または保管するものではない。  
子どもの手の届かない場所におく。

安全な容器包装材料

保管温度:>0℃

情報なし

## 8. 【 ばく露防止及び保護措置 】

許容濃度等

適用される職業暴露限界はなし。

設備対策

生物学的限界値:情報なし

保護具

呼吸用保護具

特に、閉所では十分な換気の確保が必要。

従業員への暴露を勧告限界値以下に保つため十分な換気を行う。

手の保護具

適切な許容限界を超えた濃度で、空気中の浮遊物質に暴露される可能性がある場所では、承認されたダストおよびミスト用カートリッジ付呼吸保護具を着用すること。

眼、顔面の保護具

保護手袋

皮膚及び身体の保護具

この物質との接触を避けるため保護用眼鏡を着用する。

手袋、前掛け、長靴、カバーオールなどの保護衣を必要に応じて着用すること。

保護措置

製造者の個人用保護具(PPE)のクリーニング/メンテナンスの指示に従うこと。

もしそのような洗浄に関する指示が存在しない場合、洗剤と湯を使用すること。

他の洗濯物と分けて個人用保護具(PPE)を洗うこと。

## 9. 【 物理的及び化学的性質 】

物理状態

液体

色

類白色

臭い

軽い油臭

融点/凝固点

臭いの閾値:情報なし

沸点又は初留点及び沸騰範囲

融点/範囲:適用なし

可燃性

99℃

爆発下限界及び爆発上限界

この製品は可燃性ではない。

/可燃限界

情報なし

引火点

沸点までは引火しない。

自然発火点

254℃

分解温度

情報なし

pH

5.1 (10g/L)

動粘性率

動粘度:情報なし

溶解度	水溶性:分散する
n-オクタノール/水分配係数 (log値)	情報なし
蒸気圧	情報なし
密度及び/又は相対密度	かさ密度:0.9-1.1g/cm <sup>3</sup>
相対ガス密度	情報なし
粒子特性	情報なし
蒸発速度	情報なし
分子量	情報なし

**10. 【 安定性及び反応性 】**

反応性	情報なし
化学的安定性	常温及び通常の保存条件下で安定である。
危険有害反応可能性	情報なし
避けるべき条件	氷結しないように保温する。
混触危険物質	特に言及するべき物質は無し。
危険有害な分解生成物	情報なし

**11. 【 有害性情報 】**

急性毒性(経口)	ラット LD <sub>50</sub> :>5,000mg/kg(区分に該当しない)
急性毒性(経皮)	ラット LD <sub>50</sub> :>5,000mg/kg(区分に該当しない)
急性毒性(吸入)	ラット LC <sub>50</sub> (4h)(粉塵/ミスト):>3.3mg/L
皮膚腐食性/刺激性	ウサギ:皮膚への刺激なし
眼に対する重篤な損傷性 /眼刺激性	ウサギ:眼の刺激なし
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性 情報なし 皮膚感作性 複数種:皮膚に触れると感作を起すことがある。
生殖細胞変異原性*	細菌及び哺乳類の培養細胞での試験では、変異原性は見られなかった。 この物質は動物の遺伝子を損傷しないことを示唆する証拠がある。 フュームドシリカ:動物実験では、突然異変は見られなかった。 細菌及び哺乳類の培養細胞での試験では、変異原性は見られなかった。
発がん性*	ヒト発がん性としては分類できない。 動物実験では、発がん性の影響は見られなかった。
生殖毒性*	生殖毒性:生殖毒性なし 動物試験では、生殖毒性は示されなかった。 催奇形性:母体に有毒となるレベル以上のレベルにおいて、胚-胎児の発生への影響が、動物試験により示された。 フュームドシリカ:催奇形性:動物試験では、発生毒性は示されなかった。本情報は、類似する物質から得られたデータに基づく。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)*	この物質または混合物は、特定標的臓器毒性、単回暴露に分類されない。 フュームドシリカ:この物質または混合物は、特定標的臓器毒性、単回暴露に分類されない。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)*	この物質または混合物は、特定標的臓器毒性、反復暴露に分類されない。 フュームドシリカ:可能性のある暴露ルート:吸入 標的臓器:呼吸器官
誤えん有害性	誤えん有害性に分類されない
その他*	反復投与毒性:以下の影響は、表示された使用条件下で予想されたものを著しく超える暴露レベルにおいて起こった。 経口/ラット28-90d 甲状腺への影響、臓器の重量変化、神経毒性に影響しない。

経皮/ラット28d

毒性学的に重大な影響は見られなかった。

経口/マウス90d

毒性学的に重大な影響は見られなかった。

経口/イヌ90d

血液中の化学成分の変化、肝臓への影響、動脈炎

経口/複数種28d

免疫系、毒性学的に重大な影響は見られなかった。

経口/ラット14d

毒性学的に重大な影響は見られなかった。

経口/イヌ365d

肝臓への影響、胆嚢への影響、血液中の化学成分の変化、  
動脈炎

吸入/ラット28d

毒性学的に重大な影響は見られなかった。

フュームドシリカ:

反復投与毒性:吸入/ラット91d 粉塵/ミスト

呼吸器官への影響、本情報は、類似する物質から  
得られたデータに基づく。

\*シアントラニリプロールのデータ

## 12. 【 環境影響情報 】

生態毒性

魚類

OECD 試験ガイドライン 203

Oncorhynchus mykiss(ニジマス)LC<sub>50</sub>(96h):>12.6mg/L\*

Lepomis macrochirus(ブルーギルサンフィッシュ)LC<sub>50</sub>(96h):  
>13mg/L\*

甲殻類

フュームドシリカ:ゼブラダニオ LC<sub>50</sub>(96h):>10,000mg/L

Daphnia magna(オオミジンコ)EC<sub>50</sub>(48h):0.215mg/L

Daphnia magna(オオミジンコ)NOEC(21d):0.00656mg/L\*

藻類

OECD 試験ガイドライン 201

Pseudokirchneriella subcapitata(緑藻)ErC<sub>50</sub>(72h):>13mg/L\*

Lemna gibba(ウキクサ)ErC<sub>50</sub>(7d):>12.1mg/L\*

残留性/分解性

情報なし

生態蓄積性

フュームドシリカ:生態蓄積性はない

土壤中の移動性

情報なし

オゾン層への有害性

情報が十分でない(分類できない)

他の有害影響

環境の予防措置に関する、取り扱いの追加説明は製品ラベルを参照する。

\*シアントラニリプロールのデータ

## 13. 【 廃棄上の注意 】

化学品、汚染容器及び包装の  
安全で、かつ環境上望ましい  
廃棄、又はリサイクルに関する  
情報

廃棄物の処理及び清掃に関する法律(施行令第6条)に従って廃棄  
する。処理を委託する場合は、所轄の地方自治体の許可を得た一  
般(或いは、特別管理)産業廃棄物業者と契約を結んだ上、処理を  
委託する。

国及び地方自治体による規制に従う。この製品が、排水や水路、  
地面に流れ込まないように留意する。

空き容器を廃棄処理する場合は、内容物を完全に除去し、廃棄物  
の処理及び清掃に関する法律(施行令第6条)に従って廃棄する。  
空の容器を再使用しない。

## 14. 【 輸送上の注意 】

国連番号

3082

品名(国連輸送名)	環境有害物質(液体)(シアントラニリプロール)
国連分類	9(有害性物質)
容器等級	III
海洋汚染物質	該当(シアントラニリプロール)
国内規制がある場合の規制情報	航空法、船舶安全法
応急措置指針番号	171

**15. 【 適用法令 】**

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

農薬取締法	第 24209 号
化学物質排出把握管理促進法 (化管法)	シアントラニリプロール(第 2 種)
労働安全衛生法	第 57 条 表示対象物、第 57 条の 2 通知対象物 シアントラニリプロール(令和 9 年 4 月 1 日以降)
毒物及び劇物取締法	該当なし
消防法	該当なし
航空法	その他の有害物
船舶安全法	有害性物質

**16. 【 SDSの作成と改訂に関する情報を含むその他の情報 】**

緊急連絡先:03-5962-9731(9時~17時 土日祝を除く)

公益財団法人 日本中毒情報センター(事故に伴い急性中毒の恐れがある場合に限る)

中毒110番 365日24時間対応

	一般市民専用電話 (情報料無料)	医療機関専用有料電話 (1件2000円)
大阪	072-727-2499	072-726-9923
つくば	029-852-9999	029-851-9999

医療機関の方が一般市民専用電話を使用した場合も、情報料1件につき2,000円を徴収します。

記載内容は十分な配慮に基づき作成しておりますが、新しい知見により改訂されることがあります。本データシートは情報を提供するものであって、品質や安全性等に関していかなる保証もするものではありません。危険・有害性等の評価は必ずしも万全ではありませんので、取扱いには十分注意を払って下さい。また、注意事項は通常取扱いを対象としております。